

# テレワーク川柳2025

～五・七・五にのせて、テレワークの日常と人情を詠む～



会長賞

Congratulations!

熱弁の

あとに虚しい

「ミュートです」

たけのこキノコ



ミュート（音声をオフにする）機能にまつわる思わず共感してしまう句は今回も多数寄せられました。多くの方が実際にテレワークを経験していることが伺えます。熱心に話した後で気づいたあの何とも言えない瞬間を「虚しい」という一語で巧みに表現し、テレワークならではの“あるある”を川柳らしく印象づけた一句です。



優秀賞

就職の

外せぬ条件

テレワーク

ベンジャミン



「外せぬ条件」という言葉は、テレワークが就職先を選ぶ上で重要な判断材料になっている現状を、端的に表していると言えます。企業側が提供する働き方の選択肢を見極め、評価していることが伝わってきます。



優秀賞

部下は皆

オレの来る日に

テレワーク

トンちゃん



上司が出社する日に限って部下がテレワークを選ぶという、思わず苦笑してしまう場面です。佳作の「別の目配り 気配り」で「逆に上司が 近くなり」のように、働き方が変化しても関係性を深められるかどうか求めています。



U30賞

雑談が

恋しくなって

チャットする

まこみ



対面では当たり前だった何気ない会話をチャットで補おうとしており、「雑談」が果たす重要性や効果が表現されています。テレワークだからこそそのツールを、メリハリをつけて上手に活用している様子を感じさせる一句です。



U30賞

この仕事

家でできたか

感動し

楠木祐



「家でできたか」から働き方の可能性が広がった驚きと喜びが伝わってきます。学校や塾でオンライン授業を受講する世代は感動どころかそれが当たり前かもしれません。より多様な働き方へ発展していくことを期待したい一句です。

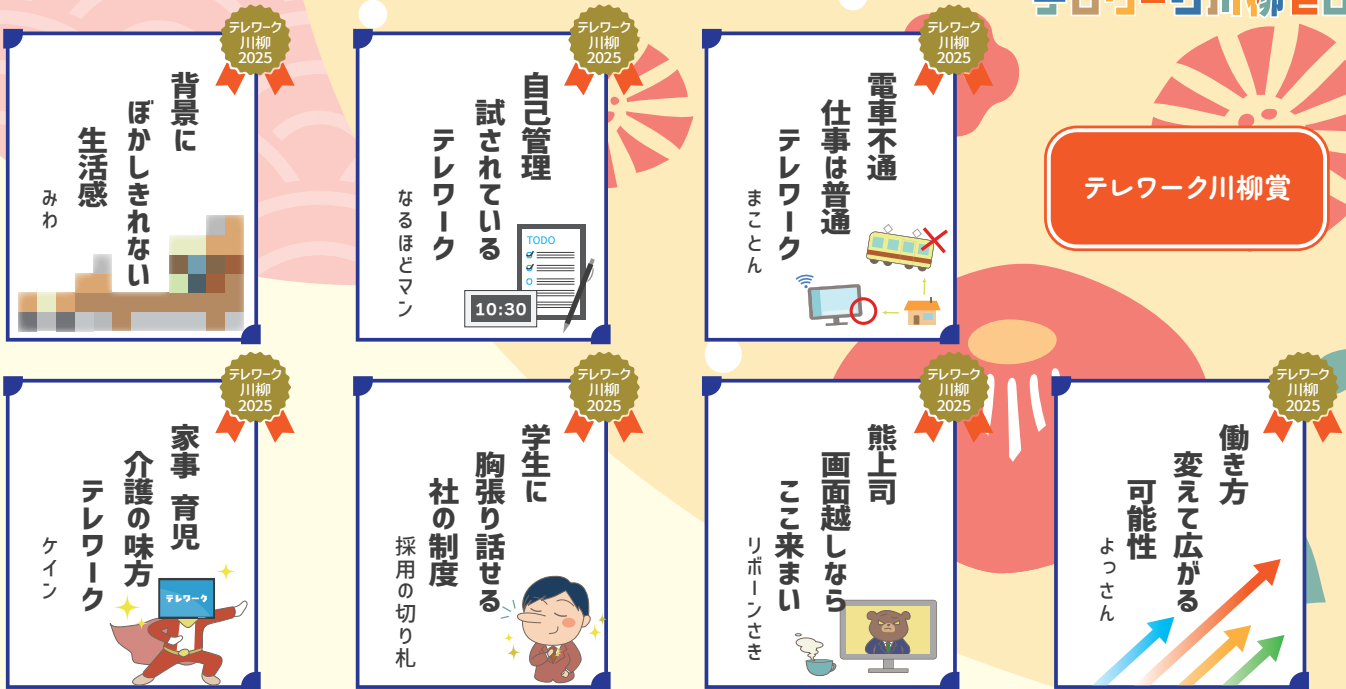
## 総評コメント

テレワークが社会に定着しつつある中(※)、今年度は3,696首ものご応募をいただき、テレワークが人々の暮らしや働き方の中に確かに根付いていることを改めて実感いたしました。応募作品からは、工夫を重ねながら、より快適で効果的な「一歩進んだテレワークのある暮らし」を実践する姿が生き生きと伝わってきます。健康への配慮や家事・育児との両立、コミュニケーションツールの活用等、日常の中での新たな気づきが、ユーモアと共感をもって詠まれていた点が印象的でした。一方で、お子さんやペットによる中断、「母乳をあげながら」といったリアルな句も多く、コロナ禍を経て多様化したワークスペースの姿が鮮明に浮かび上がりました。

テレワークは「場所や時間にとらわれない柔軟な働き方」である一方、導入や継続に課題を感じる場面もあります。当協会ホームページの「テレワーク実践事例集」「働き方DX事例集」も参考に、今後の働き方を考える一助としていただければ幸いです。今回も多くのご応募をいただき誠にありがとうございました。

(※)国土交通省「令和6年度 テレワーク人口実態調査」

テレワーク川柳賞



テレワーク川柳賞への  
コメント

背景に滲む生活感や管理の難しさといったリアルな一面から、通勤トラブル時の強さ、家事・育児・介護を支える役割まで光と影が幅広く詠まれています。学生に誇れる制度や「熊」という言葉に象徴されるように、社会や地域の変化に対応する新しい働き方の可能性も感じられました。場所と時間にとらわれない柔軟な働き方であるテレワークが選択肢として確実に根付き、時代を映す存在になっていることを実感させる作品群です。

佳作

